



# 農場HACCP・JGAPの取組

～高校生が行う安全管理システム～

## 群馬県立勢多農林高等学校



群馬県立勢多農林高等学校は、群馬県の中央部に位置し、明治41年に勢多郡立農林学校として開校し、創立115周年を迎える長い歴史と伝統を誇る学校です。令和3年度より植物科学科、植物デザイン科、動物科学科、緑地土木科、食品科学科の5学科となり、それぞれ特色のある学習を行っています。生徒が毎年入れ替わる学校現場では、生産物を安全に作るための方法を実践する必要がありました。そこで、2016年からGAP、HACCPについての学習を取り入れ、2018年にAsiaGAP「青果物（トマト、キュウリ、日本なし）」を取得し、2021年にAsiaGAP Ver2.1「穀物」を取得しました。畜産分野では、2019年に養豚で高校初の農場HACCPを取得し、2020年にJGAP（家畜・畜産物）を取得しました。2022年には養鶏でも高校初の農場HACCPを取得し、学習活動と連動した取り組みが進んでいます。また、地域連携事業として6次産業化の取り組み、時代が求める農業を実践しています。

### ●農場HACCP・JGAPとは？

〈農場HACCP〉 畜産農場にHACCP（危害要因分析）の考え方を取り入れ、**危害要因を防止するための管理ポイント**を設定し、安全な畜産物を生産する取組。

〈JGAP〉 農業生産活動において、食品安全、家畜衛生、環境保全、**アニマルウェルフェア（動物福祉）**、**労働安全**等の持続性を確保するための取組。

### ●農場HACCP・JGAP取組の動機

教育現場は多くの生徒が農場を利用します。生産する上での課題は**病気に対する防疫対策**です。生産活動を見える化し、マニュアルを作成することで、生産管理に生徒・職員が携わる学校現場には適していると考え取り組みました。

### ●養豚 農場HACCP

高校初

2017年から取得に向けた取組を開始し、2019年に高校では初の農場HACCPを取得しました。苦労した点は、**管理作業を見直し、人・物の動線を定め、生産に関わるすべての作業工程を文書化したこと**です。これにより、**作業がマニュアル化され、防疫対策が徹底されました。**



図1 豚舎



図2 豚房 除糞作業

### ●養豚 JGAP

2019年から取得に向けた取組を開始し、2020年にJGAPを取得しました。作業者と家畜の安全を重視し、特に**アニマルウェルフェアを見直し、飼育環境の改善**に取り組みました。



図3 JGAP 認証証

### ●養鶏 農場HACCP

高校初

養豚で蓄積された経験を活かして、2021年から取組を開始し、2022年に高校では初の農場HACCPを取得しました。**日常の工程や不定期で行う工程を整理しておくことで、安全確保につながっています。**



図4 農場HACCP認定書



図5 養鶏部

### ●6次産業化 地域連携

#### 〈トマトソーセージ〉

本校で栽培した**AsiaGAPトマト**を餌で与え、さらに**ドライトマト**を材料に使用して**トマトソーセージ**を製造しました。**JGAPシール**も添付し、付加価値のある6次産業化を実践しています。



図6 トマト給餌



図7ソーセージ製造



図8 トマトソーセージ

#### 〈勢多農シフォンケーキ〉

食品科学科が商品化した、**勢多農の卵（農場HACCP卵）**をたっぷりを使い、口当たりが優しく香り豊かに仕上げた**シフォンケーキ**です。



図9 勢多農シフォンケーキ